

家畜衛生だより



令和8年度第17号（鶏） 令和8年7月発行

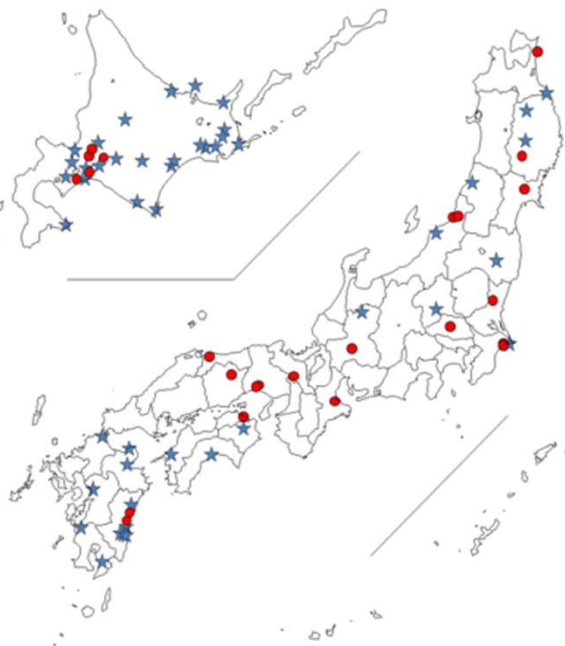
東 部 家 畜 防 疫 協 議 会
（ 公 社 ） 千 葉 県 畜 産 協 会
千 葉 県 東 部 家 畜 保 健 衛 生 所
〒289-3182 匝 瑛 市 今 泉 7142
電 話 0 4 7 9 - 8 5 - 8 9 0 0
F A X 0 4 7 9 - 8 5 - 5 9 3 2



令和7年(2025/26)シーズンの全国HPAI発生事例の疫学検討結果と今後の対策について(農水省発表)

令和7年シーズンの発生状況

● 家きん
★ 野鳥・環境試料



過去シーズンとの比較

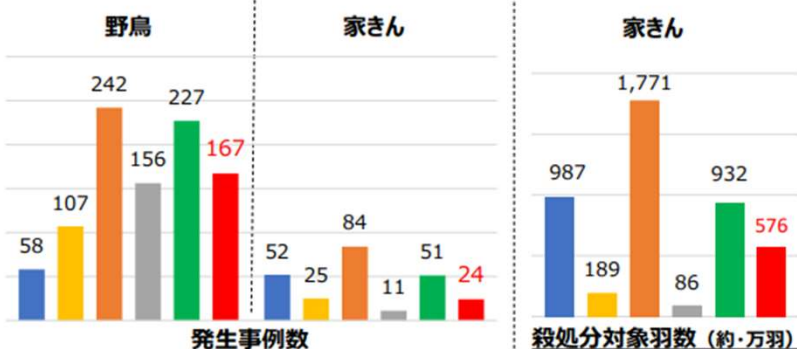
(1) 初発、最終確認日

		R2シーズン	R3シーズン	R4シーズン	R5シーズン	R6シーズン	R7シーズン
野鳥	初発	10月24日	11月8日	9月25日	10月4日	9月30日	10月15日
	最終確認	3月3日	5月14日	4月20日	4月30日	6月17日	5月22日※
家きん	初発	11月5日	11月10日	10月28日	11月25日	10月17日	10月22日
	最終確認	3月13日	5月14日	4月7日	4月29日	2月1日	4月22日※

※6月4日時点
(注) 野鳥の日付は回収日

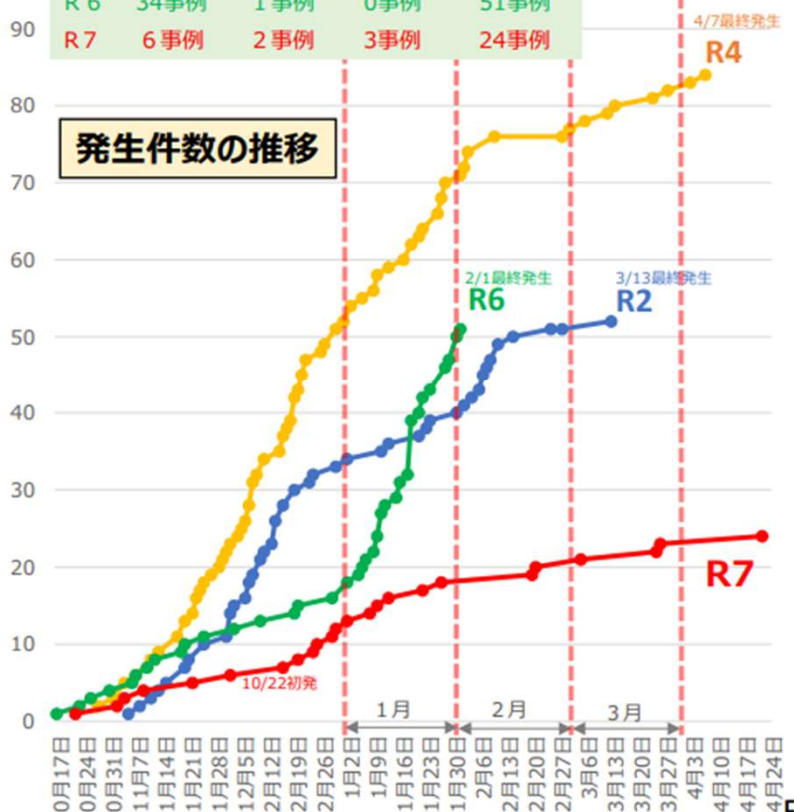
(2) 発生事例数(野鳥、家きん)、殺処分対象羽数

■ R2シーズン ■ R3シーズン ■ R4シーズン ■ R5シーズン ■ R6シーズン ■ R7シーズン



	1月	2月	3月	シーズン計
R 2	7事例	11事例	1事例	52事例
R 4	19事例	6事例	6事例	84事例
R 6	34事例	1事例	0事例	51事例
R 7	6事例	2事例	3事例	24事例

発生件数の推移



★野鳥は16道県168事例で感染を確認水鳥類に加えて猛禽類やカラス類の感染が認められ、**2025年秋以降は全国的に長期間家きん農場へHPAIウイルス侵入リスクが高い状態にあったと考えられた。**

★25/26シーズン発生事例のHPAIV発生農場家きんから採取した3種類(遺伝子型)の感染実験で、鶏は全て死亡、平均死亡日数に大きな違いなかった。

また、40の発生事例で時間経過に応じた死亡羽数の増加等の所見が得られた。

このため、**25/26シーズンも、死亡羽数の増加はHPAIの早期発見・早期通報のための有効な指標であったと推察した。**

HPAIウイルスの侵入経路と 今後の対策について(農水省提言)

1：農場周辺環境へのウイルスの侵入要因

「**野鳥の感染が広い範囲で起こっていたこと**」が主な要因

2：家きん舎内へのウイルスの侵入経路

衛生管理区域立入り時の手指の洗浄・消毒や家きん舎の壁面破損修繕等の**衛生管理対策の不備、野鳥や野生動物の侵入等**が家きんの感染リスクとなった可能性あり。

★農場で発見したクマネズミの死体から採取されたHPAIVは、同農場の家きんから採取されたものと高い一致率を示した。

★家きん舎に野生動物の侵入痕跡がなく、衛生対策が徹底されている農場でもHPAIが発生した。

→ これらの侵入経路については、**ウイルスに汚染された粉塵、羽毛等の様々な可能性**についても検証の必要あり

①**早期発見・早期通報**の徹底。

②全ての**農場従事者と出入業者も飼養衛生管理基準を確実に遵守**する。

③大臣指定地域（発生歴がある高リスク地域）は、連続発生リスクを踏まえて**十分な量の消毒薬の確保及び適切な塵埃対策の準備**を完了する。

④**農場周辺の野鳥生息状況等を把握し、地域一体で野鳥の誘引リスクを低減**する。

⑤大規模農場（20万羽以上等）は**分割管理の導入**を前向きに検討する。

⑥既発農場では発生リスクが高い事実を十分に認識し、**外部の専門家も活用し、経営再開時やハイリスクシーズンの指導・対策**を行う。

⑦**あひる（あいがも）農場やうずら農場**においては死亡の増加等の**異常兆候が明確でない場合があることを踏まえて日常管理で異常の早期把握及び通報を徹底**する。

家きんの異状を見つけたら、速やかに家畜保健衛生所に通報を！

＜高病原性及び低病原性鳥インフルエンザの症状例＞

鶏冠・肉垂等のチアノーゼ、沈うつ、産卵率の低下、まとまった死亡、など

千葉県東部家畜保健衛生所 TEL 0479-85-8900 FAX 0479-85-5932

※急性悪性家畜伝染病（高病原性鳥インフルエンザ等）の早期対応のため、疑わしい症状があれば速やかに連絡してください。夜間・休日は転送されますので、必ず5回以上コールしてください。